

個々の持ち味を生かしつつ、全体のレベルアップを実現

文武両道・質実剛健を旨とし、実践的な工業教育を通じて将来の工業のスペシャリストを育成している古川工業高等学校。同校の建築科では、建築におけるプレゼンテーションを学ぶ実習授業の一環として Piranesi を利用したカリキュラムを導入しており、多くの生徒が熱心に学んでいる。



導入までの経緯

授業に建築パースのプレゼンテーションの学習を取り入れる必要のあった同校建築科は、仙台工業高校での CAD 製品紹介セミナーで Piranesi の存在を知った。プレゼンパース作成に適したソフトとの印象を持ち、早速導入を検討。まもなく導入が実現した。

当初、全科（土木情報科/建築科/電気電子科/機械科/化学技術科）共用のパソコン室にインストールされていたが、平成 17 年度、新設された建築科専用のコンピュータ室へ移行され、それを機に V2 から V4 へバージョンアップされた。

Piranesi の導入目的は「建築におけるプレゼンテーションの学習」。授業では手描きの着彩も行なっているが、Piranesi の着彩では、作品の見栄えが格段に良くなるうえ、失敗しても修正できる、つまり、試行錯誤しながら手軽にクオリティの高い作品を作成できる点がメリットである。

運用状況

建築科では、Piranesi での作業に入る前に、まず手描きで着彩を行なっている。図面作成の際も、いきなり CAD ソフトを使用して描くのではなく、必ず最初にドラフタで描いている。

CAD ソフトには JW_CAD と Architrend を利用。Architrend で作成した 3D モデルを Piranesi で着彩している。（Architrend は平成 20 年度のバージョンアップ以後、Piranesi との連携が一層向上している。） Piranesi では、3D モデルだけでなく、平面図や立面図にも着彩している。

対話型システムである Piranesi は、操作結果がすぐに画面上に反映されるため、反映結果を見ながらどんどん次の作業が行なえる。また、操作性も高いため、短時間ですぐに操作に慣れることができる。学生達は、細かく指導されなくても、自主的に操作学習に励んでおり、なかには、「土・

日も Piranesi を使用したいので教室を開放して欲しい」と希望する熱心な学生もいるという。

Piranesi を利用すれば、着彩に失敗しても何度でも修正できるので、絵を描くのが苦手な学生でも一定レベルの作品を作成できる。またその一方で、同じモデルを使っても、それぞれの学生によって着彩に個性がでる。つまり、全体としてスキルの均一化を図りつつ、個性を生かすことができる点でも Piranesi を評価している。

導入効果

学生達は Piranesi で着彩した作品を、インフォマティクス社が開催しているコンテスト「Piranesi & MicroGDS Award」をはじめ、大学や地域主催のコンペに出品している。

平成 18 年度の「Piranesi/MicroGDS Award 2007」では学生部門賞を受賞。受賞作品はインフォマティクス社の広告として、第 57 回東日本建築教育研究会総会で参加各校に紹介されている。

また、平成 20 年度の「実践型インターンシップ」(注 1) では、実際に建築予定の戸建住宅をモデリングし Piranesi で着彩した作品を出品。水面への映り込みなど、Piranesi 独特の雰囲気のある作品に仕上がった。注 1 地元工務店と連携し、生徒が設計から木造住宅の完成までを通して、実践的知識・技術の習得体験を行なうプログラム



Piranesi/MicroGDS Award 2007 作品



実践型インターンシップ作品

今後の課題・展望

同校は、これまでの一斉指導の枠を超え、より高いスキルを身につけさせる指導法を探っていきたいと考えている。そのためにも、数多くの設計競技会や各種作品コンクールへの出品に力を入れていきたいとしている。また、これらのソフトを活用できることが広く社会に認められ、生徒が卒業後の進路選択に有利になることを望んでいる。

「教員のスキルアップ＝生徒の興味関心を引き出せる」と考えている同校は、今後も建築パースのプレゼンテーション学習におけるソフト活用に前向きに取り組んでいきたいとしている。